



## 退任のごあいさつ



院長 たか はし みち なが  
高橋 道長

今年は、足早に春を感じています。官庁街通りの桜の開花も、例年より大分早まりそうです。さて、皆様もご存知のように、私は3月をもって病院を定年退職することになりました。退職にあたり、皆様にご挨拶を申し上げます。

私が、十和田市に転居してきたのは、2018年の12月末のことですので、丸5年以上十和田市立中央病院に勤務したことになります。2019年1月から外科の副院長として勤務を始め、臨床研修管理委員会や医療安全管理対策委員会などでは多くの方々にサポートしていただき、なんとか無難に務めを果たすことができました。そのおよそ1年後、松野正紀前管理者・丹野弘晃前院長のご高配により、2020年4月から院長を拝命いたしました。その時点で、院長職就任に対する不安はあったものの、定年までの4年間はあっという間に過ぎ去るだろうと多少の油断・慢心があったのは間違いありません。

2020年の2月初旬、ダイヤモンド・プリンセス号が横浜港に入港後、乗客の新型コロナ感染症が本邦で初めて確認されました。その後感染の蔓延が発覚し、関東地区で多くの感染症指定病院が患者対応に巻き込まれました。遠い首都圏の話と思っていたところに、3月末に青森県内の学生が、卒業記念旅行で訪れたスペインで新型コロナウイルスに感染したことが報道され、早くも青森県への到達が判明しました。それから2週間足らず、院長を拝命したばかりの4月早々、誰も予想もしていなかった十和田市内の認知症グループホームの入居者からコロナウイルスが検出されました。施設内に感染が広まっている可能性があるかと判断し、DMATの藪内先生を中心にして、1日で別館3階の個室10床を感染症病棟として改修し、既設の4床を含めて14床としたのは、豊臣秀吉の一夜城を彷彿とさせる大仕事でした。その直後、丹野管理者と共にグループホームまで出張して、PCR検査を行ったところ、驚愕の結果が得られました。なんと職員と入居者の30%、8名が陽性と判定されたため、急遽、別館3階を感染症病棟としてフル稼働させ、医師・看護師・事務職員等が交代で、治療・看護にあたりました。その後、4年間、外来・救急の診療制限、病棟の入院制限・閉鎖などを繰り返し、医局のドクタークラスターなど、大波小波が押し寄せては引いていき、職員の方々には、医療従事者としての使命感を持って対応していただきました。誰もが、数々の艱難辛苦を経験してきましたが、その第10波がようやく収束しつつあります。この間、小嶋先生・沼田先生をはじめとする近隣の診療所の先生方や、竹林保健所所長などの行政・保健所の皆様、周辺の医療施設の職員の方々には、熱発者の対応やトリアージなどで本当にお世話になりました。ワクチン接種に関しても、立案・計画・準備から接種まで、多くの職員の皆様に支えられ、大変お世話になりました。改めて感謝申し上げます。

院長になってからの4年間に、非才な我が身にとってはあまりに多くの、厳しい試練が与えられ、

2倍以上の月日が過ぎたように感じられます。年齢を重ねるほどに、人生にとって重大なイベントが少なくなるため、時間が経つのが早く感じられるのが、通常の人生とされていますが、今回は全く当てはまりませんでした。この4月以降、非常勤医2名体制になる消化器内科の診療体制と病院機能を最低限維持するために、丹野管理者や次期院長の杉田先生をはじめ、関係部署の多くの医師・職員の皆様に、もうすでに大変なご迷惑・ご苦勞をかけていることを深謝いたします。その一方、4月からは、総合診療科5名と眼科2名を含め、病院全体で医師5名が純増するため、新たに医局も増設いたします。この難局を乗り越えれば、明るい未来が待っているものと信じています。また、4月から施行予定の医師働き方改革に関しては、勤務時間短縮計画の提出に続き、審査にも合格したとの通知が2月中旬に届きました。働き方改革への取り組みは、私に与えられた重大な任務だったので、期限内に無事に審査で承認されたのは、大きな朗報でした。当院では、年間時間外勤務時間がどうしても960時間以下に削減できない診療科があったため、1860時間までのB水準で審査の申請を行いました。こちらの時間外勤務の縮減に関しては1月より東北大学から、隔週で3日間の週末のサポートに来ていただいているほか、4月からは、若手の非常勤医師が入職予定ですので、先生方の負担も軽減されるものと期待しています。

私自身、退職後は仙台市内の老健施設で週3日勤務する余裕のある老後を過ごすはずでした。しかし、公立七戸病院の小野院長から、診療支援を強く要請されたため、微力ながら週2日七戸病院で当分の間勤務させていただくことになりました。その間、現在の賃貸住宅を継続して利用するようになります。十和田市内のスーパーや温泉などで、顔を合わせた際には、驚かずに、無視することなく、声をかけていただければ幸いです。皆様と共に働いた5年間は、私にとって、決して忘れることのできない記憶として、深く心に刻まれております。5年間、私を支えていただいた当院職員の皆様方には、心より感謝申し上げます。今後の十和田市立中央病院の発展と、職員の皆様のご健勝とご活躍を、さらに上十三圏域の住民の方々のご健康を祈念して、退任のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。



## 「院長退任記念講演会」開催報告

業務課 医療支援室1 畠山 徹



令和6年3月5日(火)午後4時から別館2階講堂にて、今年度をもって退任される高橋院長の退任記念講演が行われました。

杉田副院長が座長を務め、医師、看護師等の医療職員のみならず事務職員を含む多くの職員が出席し講演を聴講しました。「なぜ胆汁と膵液は十二指腸乳頭から一緒に分泌されるのか? - Biliary diversion (胆道再建・胆汁外瘻術) からみた胆膵臓器相関 -」と題した講演では、取り組んできた研究

結果の詳細な解説や、海外で実験を重ねた際の苦勞なども振り返り、集まった職員は熱心に耳を傾けていました。講演終了後には大きな拍手が送られ、坪看護局長より感謝の言葉とともに花束が手渡されました。



## 外来担当医表

※随時更新しておりますので、下記のURLからのご確認をお願いします。

<http://www.hp-chuou-towada.towada.aomori.jp/old/03sinryo/03gairaiDoctorList.html>